

# 社会科教育講座説明会

初等・中等教育コース社会専攻および、  
小学校専攻のうち2年次から副専攻社会を選択する者

2022年8月6日

熊本大学大学院人文社会科学部  
(教育学部兼担) 山本耕三 (地理学)

# 本講座について

- ▶ 「初等・中等教育コース社会専攻」というのは2022年度入学生からの専攻名で、2021年度以前入学者では、「中学校教員養成課程（社会）」といたします。
- ▶ 「小学校教員養成課程（副専攻社会）」の2年次以上の学生たちと合わせて、「社会科教育講座」といたします。2022年度入学の、「初等・中等教育コース小学校専攻」1期生は、まだ講座に属していません。
- ▶ また、「初等・中等教育コース社会専攻」の学生の大半も、副専攻として小学校教員免許を取得することになるでしょう。

- ▶ 副専攻を取るべき理由は、公立小・中学校の教員に採用された場合、初任校より後の人事異動は、「義務教育」というくくりで行われることが多いからです。ただし、都道府県・政令指定都市ごとに方針を決めますので、採用された校種でずっといくケースもありますし、異動に際し希望を出す機会もあります。
- ▶ ほかにも副専攻を取るべき理由はいくつもあります。一例を挙げると、熊本県の場合、小・中両方の免許を持っていると、採用選考で加点対象になります。中・高の組み合わせは加点対象になりません。加点制度は、都道府県・政令指定都市ごとに決めますので、詳しいことは、「〇〇県教採」で検索して「実施要項」を見てください。
- ▶ 中学校教員をめざす場合、文学部や理学部に行くこともアリですが、教育学部の（文学部や理学部にはない）最大のメリットは、小学校教員免許も取得できることにあります。小学校の全教科担当に不安を感じるあなた、関西人の納豆嫌いと同じで、食べて不味いと思ったのではなく、食べず嫌いなのだけではないですか？

- ▶ 最近、「教職＝ブラック」や、産休等で長期の休みに入った先生の代わりの先生が来ない、教員採用選考の競争率低下、さらには教師の不祥事のニュースに事欠きません。
- ▶ 教採の競争率低下の理由は、「教職＝ブラック」が広く知られるようになって大学生に忌避される職業になったからだとは、必ずしも言えません。教員という職業は、大半の高校生にとって、生まれてから今日に至るまで、最も長い時間、働く大人の姿を見てきた職業です。鳥のヒナが卵からかえって初めて見た動くものを親だと思ふのと同じレベルで、教員になりたいと思ふ高校生は、昔も今も変わらずいます。日本では高校生が少子化で少なくなったので、教員になりたいと思ふ高校生の絶対数が減ったのです。
- ▶ 加えて、第二次ベビーブーム期（1970年代前半）に大量に生まれた人たちの就学・進学に合わせて大量採用した教員が定年等で大量退職していて、その置き換えで大量採用しようとしていること、その後の少子化で採用数が激減したことなどで増えていった、教採受験浪人をしながら臨時的任用の先生をしていた人たちが近年どんどん合格して教採を受験する必要がなくなったことなど。

- ▶ ちょっと休憩。小学校の先生になれば、この手の小学生とたわむれることができます。



# どんな先生がいるか

- ▶ 日本史
- ▶ 東洋史
- ▶ 人文地理学

以前は西洋史、自然地理学、社会学、法律学もいましたが、少子化に伴う教育学部の規模縮小のため、現在はいません。これらの分野は、文学部・法学部・他大学の先生による講義はありますが、ゼミナールと卒論指導はありません。どの分野にも教員がいる状態を望むなら、人口が多い都道府県にある国立教員養成大学・学部に行きましょう。「道」は札幌校へ。

- 経済学
- 倫理学（現在副学長職にあるので、講義はしますがゼミナールと卒論指導はしません）
- 社会科教育学（よい授業の作り方や分析の仕方）2人

# どんな免許・資格が取れるか

- ▶ 小学校教諭一種免許状
  - ▶ 中学校社会科教諭一種免許状
  - ▶ 高等学校地理歴史科教諭一種免許状
  - ▶ 高等学校公民科教諭一種免許状
  - ▶ 大学院を修了すると専修免許
  - ▶ その他（幼稚園教諭・特別支援学校教諭二種、博物館学芸員）
- 
- ▶ 免許の「一種」は大学卒業程度、「二種」は短大卒業程度です。高校免許に「二種」はありません。
  - ▶ 博物館学芸員になるには、教職大学院でない大学院に進学し、学芸員の職務に直結する分野を専攻しなければならないとってください。

# 卒業生の進路

## —2022年3月に卒業した23人—

- ▶ 教員10人（中学校課程→中学校教諭3、中学校課程→小学校教諭1、小学校課程→小学校教諭6、いずれも正規採用）
- ▶ 就職11人（国家公務員総合職1、県庁2、企業7、その他の就職1）
- ▶ 教職大学院進学1人
- ▶ 教採受験浪人1人（小学校課程→高校志望。高校教員は、地方の県では大量退職・大量採用がまだで求人がとても少なく、現役合格することはほぼないです。また、日本史、世界史、地理の「科目」ごとに小分けして募集する県では、科目によっては募集ゼロの年もあります。4年次のゴールデンウィーク頃まで募集の有無さえ分からない県もあります。義務教育の教員の採用選考と違って、国立教員養成大学・学部の学生が、筆記試験の得点力という意味において、受験者の中で最優秀層ではないという現実もあります。）



# 卒業生の進路

—2021年3月に卒業した27人—

- ▶ 教員15人（中学校課程→中学校教諭正規採用1、中→中臨時的任用2、小学校課程→中臨時的任用1、小→小正規採用10、小→小臨時的任用1）
- ▶ 就職8人（国家公務員一般職2、県庁・政令指定都市市役所2、その他の市役所2、企業2）
- ▶ 大学院進学0人
- ▶ 教採受験浪人2人、アルバイト1人、進路不詳1人

# 学生生活について

当日、現役大学生にZoom参加してもらおう予定です。



事前準備の資料は以上です。